

聖書の権威とみことばを分かち合うこと
一書かれていることを越えない分かち合いのあり方一

聖書同盟総主事兼 CSK（中学生聖書クラブ協力会）主事 嶋田博考

新約聖書の権威

まず、私たちの主イエスは旧約聖書に権威を認められました。「まことに、あなたがたに言います。天地が消え去るまで、律法の一点一画も決して消え去ることはありません。すべてが実現します。」（マタイ 5:18）そして、これから書かれる新約聖書に権威を与えられました。

その方法は新約聖書を書き記すことになる者を選び任命することです。それが使徒たちでした。新約聖書の 27 巻は、使徒によって書かれたものか、使徒たちに指導された人々の中から出て使徒の権威によって認められたものか、のどちらかです。新約聖書を書き記すこと、使徒たちがなした働きはそれだけではありませんが、大切な働きでした。ジョン・ストットは、使徒の範囲を『十二弟子、(ユダの代わりに) マッテヤ、パウロ、主イエスの兄弟ヤコブと、あとたぶん二、三人』としています（「聖書理解のためのガイドブック」）。

主は、ご自身の後に来る助け主である聖霊が、新約聖書を書き記す力を与えて言われました。「これらのことを、わたしはあなたがたと一緒にいる間に話しました。しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」（ヨハネ 14:25-26）「あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。」（ヨハネ 16:12-13）主イエスも復活から昇天まで、彼らと一緒にいる限り彼らを教え、新約聖書のすべてを書き上げるための助けは聖霊が与えました。

ヨハネの黙示録の最後に、使徒ヨハネの何かをつけ加えても何かを取り除いてもならないということばがあります（黙示 22:18-19）。このことばは、弟子たちの中で最も若く、最後の生き残りである自分が年老いた今、これが使徒の権威のうちに書かれる最後の書になるのを、聖霊によって自覚してのことばかもしれません。

今の私たちに働く新約聖書の権威

ヨハネの福音書の 17 章は、大祭司の祈りとして知られます。主イエスによる弟子たちのためのとりなしの祈りです。「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」（ヨハネ 17:20）今、21 世紀の極東の島国である日本で、信じる者となって聖書を手にしている私たちが含まれます。聖書の啓示によって主イエスを信じたのならば、「彼らのことばによってわたしを信じる人々」は私たちです。使徒たちに与えられた権威は主イエスの権威です。主が望んでおられるのは、新約聖書が権威あるみことばとしてふさわしく読まれることです。

勝手に解釈しない、けれども読むことが大切

マルコはペテロの通訳者で、キリストに関するペテロの思い出とその説教の実質を忠実に記述したとされます。マルコの福音書に使徒の認証を与えたのはペテロです。

そして、ペテロは自分でも二つの手紙を書きました。

同じ手紙の序盤と終盤に同じような警告を繰り返します。「ただし、聖書のどんな預言も勝手に解釈するものではないことを、まず心得ておきなさい。」(Ⅱペテロ 1:20) そして、パウロの書いた手紙を聖書とし、それらを曲解する者を取り上げ、同じことをしないよう警告します(Ⅱペテロ 3:17)。

けれども、これは但し書きであり、あくまで注意また警告です。ペテロが望んでいるのは、預言のみことばに目を留めていることであり、書き送られたパウロの手紙を読むことです。勝手に解釈し、曲解することを避けるために、読むのを差し控えるということではありません。

みことばに向かう姿勢を教えられる分かち合い

態度、姿勢、生き方は人格的に伝えられるとわかりやすく、また効果的です。「書かれていることを越えない」とは、言い換えると、神の権威の下にあって神に栄光を帰すということです。人の解釈のすばらしさではなく、みことばが語るところが現されることです。もちろん、牧師の忠実なメッセージとその語る姿勢から多くの人がすでに学んでいます。けれども、みことばそのものと取り組むときに、一人一人の教会員が、自分のうちから同じ態度が実際に出てくるかどうか大切です。

たとえば、分かち合いのうちに理解が進み、前言を修正したり撤回したりすることがあっても有益です。分かち合いは、自分が正しいことではなく、みことばが正しいことが明らかになるための交わりです。みことばの権威のもとに自らを置くあり方は、お互いに良い影響を与え、その姿勢が生活のすべてに及ぶことが期待できます。

牧師がみことばの奉仕の中ですることですが、教会員も、観察・解釈・適用の帰納的聖書研究、自然の原則、歴史の原則、調和の原則で、みことばの語るところに謙虚に近づいていく方法を学び、自分のものとする必要があります。良い分かち合いは、チームワークで、すなわちお互いの発言がお互いの理解の助けとなって、みことばが語っているところに到達できる分かち合いです。さらに、みことばにはキリストの権威がありますので、教えられたみことばに押し出されるお互いを見ることができます。